日本医史学雑誌　第64巻第4号（2018）　383–384

日本医史学会創立90周年記念
特別例会（平成29年3月）

1.　日本医史学会創立90周年記念 特別例会

岡田　靖雄

青柿舎（精神科医療史資料室）

この例会は3月25日（土）におこなわれ，満席をこす盛況であった（司会岡田）.

日本医史学会の創立協議会は1927年（昭和2年）11月14日中山文化研究所でおこなわれた．その中心となったのは富士川游先生で，呉秀三先生が初代理事長となった.

例会出席者のなかで酒井シヅ，岡田は，創立以来の理事であった緒方富雄が例会を司会していたことをおぼえている．現在の高齢会員の何人かは，戦前の有力会員とのつながりをもっていた．富士川先生，呉先生のお孫さんと会員の交流もある．10年後の創立100周年記念会となると，こういった創立者や戦前世代とのつながりもうしなわれてしまっているだろう．戦前の香りがすこしでものこっている今に，この記念特別例会をひらいた次第である.

数年前から12月例会は6史学会合同例会となっている．しかし，他の5史学会の沿革，現状について充分にしることがなくきた．この機会に，6史学会の相互理解をふかめようと，関連5史学会に参加をいただいた．時期も12月例会からすこしはなした3月に設定した.

まず，小曽戸洋理事長から，今日の特別例会の意義がとかれた．つづいて，酒井シヅ前理事長から，前身の奨進医会から現在にいたる経過が報告された．戦中・戦後の後退期につづく小川鼎三理事長（再興の祖）のもとで，雑誌をリヤカーで郵便局まではこんだ苦労もはなされた．ひきつづき，日本歯科医史学会，日本薬史学会，洋学史学会，日本獣医史学会，日本看護歴史学会から，それぞれの歴史と現状とが報告された.

このあと，富士川游先生の孫・富士川義之様からご挨拶があった．父富士川英郎の伝記（読売文学賞をうけた『ある文人学者の肖像　評伝・富士川英郎』）をかき，その過程で祖父についてもすこししらべた．自分が2歳のときに祖父はなくなっているので，直接の記憶はない．のこされたものから祖父の人間像をえがきだそうとしている．復刻された『医術と宗教』をよんで，祖父がふかくかんがえたこの関係をもうすこしさぐっていきたい.

ついで，呉秀三先生の孫・呉忠士様のご挨拶をいただいた．祖父はドイツ留学からかえると，東京帝国大学教授および東京府巣鴨病院長（ひきつづき東京府立松沢病院長）として，日本の精神科医療の改革につとめた．1918年に樫田五郎とともにかいた「精神病者私宅監置ノ実況及ビ其統計的観察」中の“我邦十何万ノ精神病者ハ実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ，此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重ヌルモノト云フベシ”のことばは，自分たち子孫にとってもほこらしいものである.

富士川，呉両先生によりまかれた医学史研究の種が，こんな大樹にそだったことにお二人から祝福のことばをいただいた.

最後に，坂井建雄副理事長から，こういった先達の心をうけつぎ，また6史学会が切磋琢磨してそれぞれの研究をもりあげていきたい，との決意が表明された.

西巻明彦理事による日本歯科医史学会からの報告でだされた，1969年（昭和44年）5月（大学闘

争がもえあがっていた時期）に日本大学歯学部大学院大講堂でおこなわれた，日本医史学会・蘭学資料研究会・歯学史集談会の合同学会のときの集合写真が話題となった．どれがだれか，ということである．多くの研究者の手許には，非常に貴重であるらしいが，うつっている人がよくわからぬ写真がのこされている．そういう写真をだして，それぞれの人を特定し，どんな人だったか簡単にはなしあうことも，例会でやってよいのでないか，との提起もされた．

なお，2018年は「精神病者私宅監置ノ実況及ビ其統計的観察」の発表100周年にあたるので，日本精神衛生会は3月3日（土）に，その記念会をおこなう予定である．